

日本海沖合ベニズワイガニ広域資源管理の取組について

1. 日本海べにずわいがに漁業

○許可隻数 12隻(新潟2隻、兵庫1隻、鳥取5隻、島根4隻)

○水揚げ港 境港(11隻)、香住港(1隻)

○操業期間 9月1日～翌年6月30日
(兵庫1隻は6月の1ヶ月間を自主休漁)

○漁場 水深800～1,700m
・日韓暫定水域(新隠岐堆、大和堆)
・日本EEZ(北大和堆、隠岐周辺、浜田沖)

○採捕規制 メスガニの採捕禁止
甲幅9cm以下のオスガニの採捕禁止

○漁具 25連4, 500簗以下(1連当たり180簗以下)
網目15cm以上又は網目13cm以上に内径9.5cmの円形脱出リング3個以上装着



2. 個別漁獲割当(IQ: Individual Quota)制度について

○19年漁期導入
資源回復計画(17～23年度)の6月の1ヶ月間休漁の代替措置

○IQ総枠の設定基準
資源評価の生物学的漁獲可能量(ABC)

○繰越規定(26年漁期導入)
前年漁期の未消化枠を一定の条件の下で翌年漁期に利用
(条件1)繰越枠の上限は前年漁期IQ総枠の10%まで
(条件2)繰越枠を加算した翌年漁期IQ総枠の上限は各船配分上限の合計まで

→ 資源評価における誤差を最小限に抑制

3. 28年漁期のIQ総枠上限の設定

○資源評価

- 28年漁期ABC: 15, 856トン
うち 大臣許可水域: 10, 194トン、知事許可水域: 5, 662トン
- 資源水準・動向: 中位・横ばい

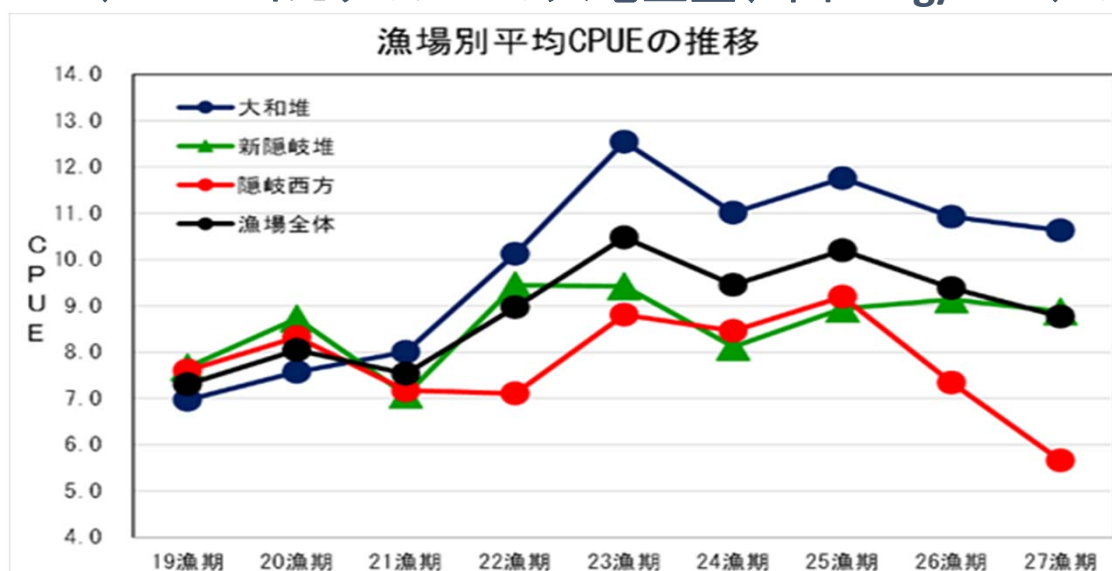
○27漁期の漁獲実績及び28年漁期の繰越枠

8, 934トン(消化率82. 5%、未消化枠1, 896トン)

→ 繰越枠636トンまで

4. 漁獲成績報告書から見た資源状況

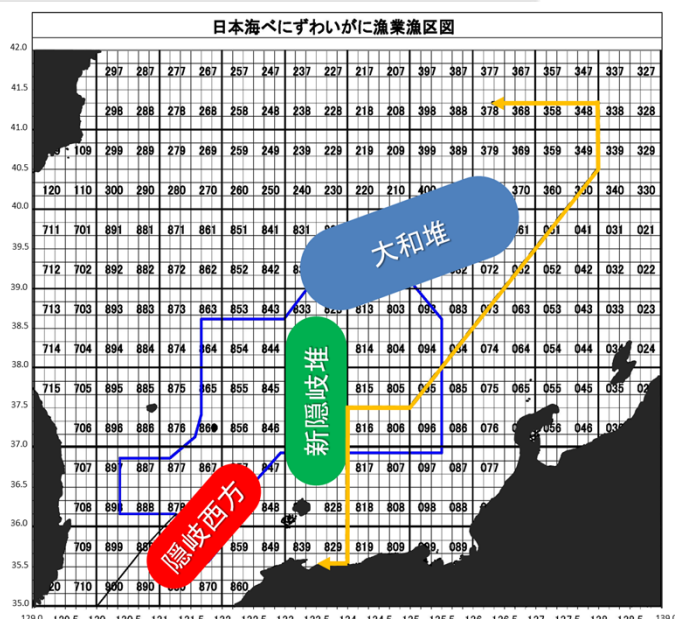
○CPUE(1かご当たりのカニの入籠重量、単位:kg/かご)の推移



漁場によってCPUEに大きな差

○漁場毎の資源状況に応じたIQ配分方法の検討が必要

○資源評価の精度向上が不可欠



5. 試験籠を用いた漁業者と鳥取県水産試験場の共同調査

○目的

漁場毎(大和堆、新隠岐堆、隠岐西方)の資源状況を把握し、次期資源動向を推定し、資源管理に活用

○方法

- ・境港水揚げ船11隻が漁期中に調査協力
- ・各船に渡した通常籠および試験籠(3cm目合)各1個を通常操業で使用
- ・入籠した漁獲物は、各船の入港水揚げ時に鳥取水試が回収し、雌雄別に甲幅、体重等を測定・解析



○データの特徴

- ・雄の成体(甲幅9cm以上)に加え、甲幅9cm未満の未成体及び雌を含む
- ・次期漁獲対象(甲幅7～9cm未満の雄)の資源動向が推定可能

○課題

サンプル数を増やして次期資源動向の推定精度を向上

鳥取県水産試験場年報 <http://www.pref.tottori.lg.jp/101122.htm>

(参考)

(単位：トン)

漁期	H23	H24	H25	H26	H27	H28
ABC	9,319	11,456	14,321	10,530	10,509	10,194
IQ総枠	10,275	10,275	10,830	10,830	10,830	
うち当初				10,530	10,830	10,194
うち追加				300	0	
漁獲量	9,731	9,289	10,019	9,233	8,934	

ABC、IQ総枠、漁獲量の推移



平成28年7月20日開催のベニズワイガニ産業三者協議会の様子

参加者：漁業者、荷受、加工・仲買業者、鳥取県、島根県、境港市、(社)境港水産振興協会、水産庁、境港漁調等

開催頻度：年2回程度

協議内容：水揚げ状況、資源状況、個別漁獲割当、調査・研究等